

# 同志社大学

## 2015年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2016年 2月 16日提出

所 属	職 名	氏 名
心理学部	准教授	石川信一
研 究 題 目	児童青年の不安・抑うつに対する認知行動療法の有効性	
研 究 成 果 の 概 要	<p>本研究の目的は、児童青年の不安障害、うつ病性障害における認知行動療法（CBT）の有効性を検討することである。</p> <p>昨年度より引き続き、先に認知行動療法を実施する（CBT）群とウェイト・リスト・コントロール（WLC）群とに割り付けを行い、CBTの有効性を検証している。</p> <p>認知行動療法プログラムは、申請者のこれまでの研究で作成されたマニュアルに基づき、同志社大学心理臨床センターの相談員が実施した。本研究で採用される親子参加型の認知行動療法プログラムにおいては、親は全セッションに子どもと一緒に参加する。プログラムは全8回、約2か月で終了する。</p> <p>本研究は来年度で終了予定のため、本年度は最終の募集を行った。現時点では最終クールの参加の決定した家族に対して、心理臨床センターにおいて、臨床心理士2名が、随時プログラムの実施を行っている。現時点で、41名がプログラムの参加をしている。</p> <p>来年度は、最終クールのプログラムの実施を行うとともに、データの分析開始する予定である。</p>	